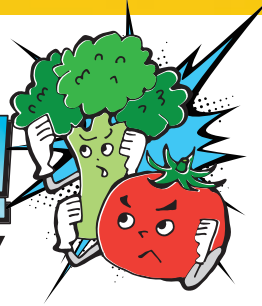


猛暑に打ちかつ!

良品を作る品種選定と栽培技術



葉ネギ

播種と定植のころは
特に温度に注意!



関東支店
ないとう やす ゆき
内藤 泰之

品種選定

アリシンという成分由来のネギ特有の香りや辛みは、体を温める効果があり冬の風邪予防などに役立ったり、夏は食欲を増進させて夏バテ防止にもつながるといえます。葉ネギは年間を通じて需要が安定しており、直売所に欠かせない品目です。品種選定や栽培ポイントを押さえて安定した出荷を目指しましょう!

夏まき・夏どり両方におすすめ!
「京千緑」

秋冬どり栽培は、通常9月以降の気



↑京千緑

温が下がってきた時期に定植します。

しかし、近年は9月も高温が続くうえ、黒マルチを使用することが多く、定植直後の高温による活着不良などの悪影響が懸念されます。定植は可能な限り最高気温が30℃を下回ることを目安に行うのが望ましいですが、残暑が厳しいと9月下旬以降になってしまいます。

そんな中、「京千緑」は生育が旺盛で低温下でも伸長性・肥大性にすぐれるため、一般地で10月上旬ごろの定植でも年内に仕上がります。定植後、活着するまでは積極的に灌水して乾かさないうよう注意します。



↑葉折れや葉先枯れの発生が少なく、立性で荷姿がよい「京千緑」

一方、厳しい暑さでも生育の停滞が少ないため、夏どり作型でも収量を確保できる点も魅力です。高温期にも葉色は濃緑で、店頭でも目を引きま

す。ただし、夏どり作型では葉先枯れや分けつが発生しやすいため、注意してください。

栽培ポイント

温度管理

ネギの発芽適温は15〜25℃ですが、30℃を超えると発芽率が急激に低下します。ネギは発芽に光を必要としないため、高温期の播種では風通しのよい日陰にトレイを置きましょう。発芽後もハウスの遮光や換気を積極的にを行い、温度上昇を防ぐことが重要です。

均一な灌水

均一な灌水でそろいと根張りのよい苗作りを目指します。本葉展開までは乾燥させないように管理し、それ以降は朝にしっかりと灌水し、夕方に乾いてくる程度の量を与えます。トレイや苗

剪葉

床の位置によって灌水量を調整することがポイントです。高温時はトレイ周囲部の乾燥、低温で晴れ間がない場合は内側の過湿に注意し、水分ムラを防ぎましょう。特に高温時には苗立枯病のリスクが高まるため、殺菌剤を定期的に灌注し、予防してください。

徒長した苗は根張りが悪く、定植後の活着不良につながります。また、トレイ上の風通しが悪くなることで病虫害の発生要因となります。育苗中に15cm程度の長さになるように2〜3回剪葉することで、太くしっかりした根張りのよい苗に仕上げるとともに、風通しを改善し病虫害の発生を防ぎます。切った葉は病気の原因となるため可能な限りトレイ上に落とさないようにしましょう。



↑ハサミで剪葉する際のイメージ。